

調査研究「リースの軌跡と将来展望」 インタビュー記録

小山田 浩定 氏 81歳（1940年生）

総合メディカル株式会社 相談役

【経歴】

- 1978年 株式会社総合メディカル・リース
（現 総合メディカル株式会社）設立
専務取締役
- 1990年 同社 代表取締役社長
- 2004年 同社 代表取締役会長
- 2012年 同社 取締役相談役
- 2017年 同社 相談役



*インタビュー実施日（2022年3月22日）の年齢を表します。インタビューは、新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で実施しました。

—— リース会社を設立した経緯について伺います。

小山田 医薬品メーカーに勤務していたころ、さまざまな企業との交渉や与信管理を担当し、よい会社やよい経営者を見極める目を養うことができました。再就職した医療機器のリース会社では、医療機関の経営状況を厳密に審査するノウハウを学びました。1978年、同じ志を持つ元同僚 7名で、地元医療機関からご支援をいただき、医療機器専門のリース会社、総合メディカル・リースを創業しました。

リースは多額の資金が必要なビジネスですが、創業に際して、金融機関の信頼を得ることができたことも幸いでした。

九州には、当時、医療機器専門のリース会社がなかったので、使命感のようなものを感じました。会社の中では、「歴史をつくるのだから責任があるよね」、「誇りを持って仕事をしようね」ということをよく言っていました。

1970年代に、リースがビジネスとして成り立っていたから、リース会社を創業できたと感じています。リースがなかったら、会社を創業できませんでした。

—— リースを定着させるために、どのような活動をされましたか。

小山田 リースは、経営者から見ると、借入金だけに頼らずに、設備導入の選択肢が増えたということですが、リースをしっかりとご理解いただく活動が必要でした。

リースを説明するために、説明用のパンフレットを作成して、医療機関を訪問しました。医療機器のリースは長期にわたる信用供与です。病院長や理事長だけではなく、必ず事務長に同席していただき、さらには顧問税理士にもご同席いただくようにしました。

リースと購入、メリットデメリットについて、納得していただけるように説明しました。医療機器を購入すると減価償却計算やコスト計算などが煩雑となりますが、リース

は、コストがはっきりと分かります。リースは非常に分かりやすく、設備導入の決断がしやすいし、管理の上でもリースのほうがよいのです。そのような活動を続けるうちに、顧客の信頼を得ることができました。

顧客から、「彼とはまた会いたい」と思われるように、相手方から信頼される人間でないと駄目ですね。今でも、ビジネスと関係なく、先生方とのお付き合いが続いています。

振り返って見ると、リースを上手に活用した医療機関は、健全に成長して、規模も大きくなっているところが多いです。

—— **1983年5月に当協会へ入会されていますが、当協会との関係で思い出深いことがありましたか。**

小山田 リース事業協会 乾 恒雄 会長（補注：会長在任 1980年5月～1986年5月）が協会の九州地区会合にお越しになった際、リースの根幹であるリース満了物件の処理や再リースを理解していないリース会社の経営者を叱ったことです。

乾会長は、リースに関する正論を述べられており、本当に感動しました。多くのリース会社が設立された時期であり、「よその会社もやっているからやってみようか」とか、「リース業をちょっとやってみようか」といった感覚があったかもしれませんが、リース会社を経営することは、そんな軽いものではないですね。

協会設立から50周年を迎えたとのことですが、先発のリース会社が設立したリース事業協会がよく機能しており、その活動の結果として、半世紀にも及ぶリース業界が形成されたと思います。

—— **医療分野のリースのマーケットの特徴を伺います。**

小山田 1980年代は、CTスキャナなどの高額な医療機器が普及する時期でした。CTスキャナは、当時1台1億円くらいしました。1990年代以降は、クリニックの開業が多くなり、導入する医療機器のリースが増加しました。今後、医療機器業界については堅調な増加傾向が国内外ともに見込まれますが、この背景には先進国の高齢化、新興国の経済発展による医療水準の向上が考えられます。また情報 ICT 化により電子カルテ等のリース件数が増加しています。

—— **会社創業当時の従業員は7名、現在、総合メディカルグループで約16,000名の従業員が働き、医療に関わる多岐な事業展開をされていると伺っています。多岐な事業展開において、リースの顧客基盤やノウハウが活かされたことがありましたか。**

小山田 コンサルティングをベースに医療機器のリースを通じて医療機関の信頼を得ることができました。医師や医療機関のお困りごとを伺い、その課題を解決するために、例えば、医薬分業を支援するための薬局の開設など、さまざまな事業を展開してまいりました。リースの顧客基盤が活かされたということになります。

—— 会社経営の基本的な考え方について伺います。

小山田 当社では、創業時からの三つの判断基準である「損か得か、正か邪か、善か悪か」を大切にしてきました。この想いを「社是・社訓」としました。「社是」は総合メディカルの使命、「社訓」は社会との約束・誓いです。そして、「わたしたちの誓い」も示していますが、これは社員の生き方を表します。これらは経営理念としており、特に経営層や管理職は、これらに反することは絶対にしないということです。

部下を持つ管理職以上には、「社是・社訓」などを掲載している冊子「克己（己に克つ）」を配布しています。これを利用することにより、会社の考え方、ミッションは何か、よく分かるようにしています。

定期採用、中途採用、縁あって当社に入社された皆さんに、入社研修の際に、社長が経営理念について直接語りかけています。単に説明するだけでは駄目で、新入社員自らが理解できるように説明をしています。まだ完璧ではありませんが、役員や社員に、当社の経営理念が浸透していると感じます。

—— 「社訓」を拝見すると、サステナビリティに通じる考え方を取り入れられている感じを受けます。

小山田 「すべての人々にとってかけがえのない、価値ある企業になります。」は、当社の価値観です。「取引先のおよきパートナーとして、その信頼に応えます。」は、取引先は、ご縁があって当社の仕事を支えてくださっています。パートナーという関係から、「上から目線」のような取引先と無理に取引関係を築く必要もないと考えています。

当社では、創業当時から、メーカーやサプライヤーに対して、「リース取引の案件はないですか」といった営業活動はしません。メーカーから当社に「商売は何かないですか」と言われるよう、顧客の訪問を徹底して行い、顧客を開拓しました。築き上げた顧客基盤がある中で、メーカーの新製品の販売促進の開拓をお手伝いしました。

その結果として、新製品が当社のリースにつながりましたが、メーカーからも頼られる存在となりました。当社としては、顧客とメーカーといった関係者に満足いただければよいわけで、「すべての人々にとってかけがえのない、価値ある企業になります。」に通じることとなります。

「社員の豊かな人生を願い、社員とともに成長します。」は、社員が当社の一員として誇りと高い使命感を持ち、仕事を通じて人間として成長し、豊かな人生を送ってほしいと願うものです。

そして、「個々の社員の人格、能力、見識を高め、企業人として社会人として、責任を果たせる人間づくりをします。」は、病を持っている患者さんを相手にしている医師を顧客としていますので、会社として、社員の人格、能力、見識を高めていく必要があるということです。

「社是・社訓」を、当社の社員がどれだけきちんと理解出来ているかによって、当社の将来や社風が決まります。経営層自ら「社是・社訓」に込められた意味をより高いレベルで共有し、使命を全うしてほしいと願っています。

—— 障がい者の雇用を積極的に行っていると伺いました。ゴールボール 浦田 理恵 選手（補注：2012年ロンドン・パラリンピックにて金メダル）も貴社の社員と伺ったことがあります。

小山田 1998年に障がい者雇用をスタートしました。その第一号となった方は、現在も経理部で活躍しています。昨年、福岡県知事から「優秀勤労障がい者」の表彰を受けました。会社で彼を見ることがありますが、生き生きと働いています。また、社内には障がい者雇用の専門部署もあり、各部署から受託する様々な業務に取り組み、会社全体の業務の効率化に寄与しています。社員のみなさんがそれぞれの役割を果たし、誇りと自信と使命感をもち、当社で天職を得たと思える人生を送ってほしいと願っています。

—— 「人に親接」、「仕事に深接」、「自分に辛接」の「三接」について、若手経営者に伝えているという記事（補注：日本経済新聞【電子版】2020年3月15日版）を拝見しました。若い世代に対して伝えたいことを伺います。

小山田 「三接」は人として当たり前のことなのですが、「人に親接」とは、人に接するときは、相手に敬意を払い、愛をもって接することが大切であることを意味します。愛とは、相手に親身になることです。「仕事に深接」は、職場における自分の立場や役割を認識し、仕事に真剣に取り組むことです。そして、「自分に辛接」は、人は本能として、問題が起きたとき、「仕方がなかった」、「運がなかった」と思うようですが、それでは成長はありません。自分に原因がなかったか振り返り、自らを厳しく律しながら、謙虚な気持ちで行動することが大切です。

若い人たちに伝えたいことは、1回限りのかけがえのない人生であり、自分を褒められる人生を過ごしてほしいということです。しかしながら、さぼっては生きることができない時代になっています。思考を止めることは勿体無いことだと伝えたいと思います。

振り返ってみると、私自身がリリースに携わったことで、多くのことを勉強することができ、人脈を広げることができました。

—— 本日は、ありがとうございました。